

2018年12月23日 クリスマス礼拝メッセージ

聖書:ルカの福音書2章21~35節

説教:待ち望むシメオン

はじめに

12月の最初の主日から、主の御降誕を待ち望む待降節を過ごしてきて、いよいよ明日はクリスマスイブ礼拝となります。日本は、クリスチャンでなくてもクリスマスをお祝いする不思議な国です。私の実家には仏壇があり、その横には神棚が飾られていました。日本には昔からご先祖様たちが信じてきた仏教や神道というありがたい宗教があるので、キリスト教は関係がない。かつて私はそう思っていたわけです。そんな私でもイエス・キリストという名前はどこかで聞いたことはあったかもしれませんが、それが自分にどう関係するのか、まったく思いもしなかった。ただクリスマスには、おいしいものが食べられることとか、何かもらえるのか、そんなことしか考えていませんでした。そんな私が今ここに立ってクリスマスの話をしているわけですから、本当に不思議です。

イエス・キリストがみんなさひとりひとりとどのような関係があるのか。ご一緒に聖書を見ていきたいと思います。

1 イエスの両親

1) 律法にしたがって

21節を読みます。「八日が満ちて幼子に割礼を施す人なり、幼子の名はイエスとつけられた。胎内に宿る前に御使いがつけた名である。」

日本にも「お七夜」という習慣があります。それと同じようなことがイスラエルにもあって、そのことがレビ記に書かれています。その律法に従い両親は幼子にイエスと名前をつけました。

そして22節。「そして、モーセの律法による彼らのきよめの期間が満ちたとき、両親は幼子をエルサレムに連れて行った。」

「きよめの期間」は耳慣れないことばです。母親は出産に際して出血したことで汚れているから三十三日間こもりなさい、そういうことがレビ記に書かれています。これも日本では「産後の床上げ」と言っているのと同じです。そのきよめの期間が満ちたので、神殿のあるエルサレムに行って最初の男の子をささげる。ささげるというのは、主の前に立たせることをいうわけですが、その際、小羊をいけにえとしてささげなければならない。それも律法で決められていた。山鳩をささげるのは、よほどの

経済的な事情がある人に限られる。イエスが育ったヨセフとマリアの家はそんなことでした。

2) 神のみことばが成就する

このようにふたりは、よく律法を守ろうと努力していた様子がわかります。二人が信仰深かったからだ、と一言でかたづけするのは簡単です。

しかし、別の見方もできます。イエスは生まれてまだ間もない赤ちゃんですが、神である方ですからこの世界を御支配しております。そうしますと、見た目では両親の信仰によっていろいろなしきたりを守っているようですが、実はイエスご自身が律法を守っておられる、そのように見るとできると思います。

なぜこんなことを言うのか。律法を初めとする聖書のみことばはだれが語ったのか。すべて神ご自身が語ってくださったみことばです。そこには人が守るべきこととしていろいろなことが書かれています。神はご自分でお語りになるけれど、神ご自身は守らない。当然ですが、そんなちぐはぐなことはしない。当然、神がお語りになったことは神ご自身もお守りになる。そのようにして、神のことばは必ず成就していくのだと言うことを、幼子であるイエスが示してくださっていることとなります。

2 シメオン

1) 待ち望む

さてここにシメオンという老人が登場します。彼は、イスラエルの慰められることを待ち望んでいたと書かれています。救い主が来られることをずっと待っていた。

イスラエルの人々が全員、シメオンと同じように熱心に救い主を待っていたのかといえばそうではない。イスラエルの人たちは最初は熱心に救い主を待っていたはずでしたが、ずっと長く待ちすぎたので、いつの間にか忘れかけていた。そういう人が多かったわけです。

ところがシメオンだけは違った。26節にこうある。「そして、主のキリストを見るまでは決して死を見ることはない、聖霊によって告げられていた。」シメオンだけは、事前にこんなふうに言われていたのですから、待ちくたびれることはなかった。

2) 私の目が御救いを見た

シメオンが御霊に導かれて宮に入ると、ちょうどそこへ両親が幼子イエスを連れて入って来ます。彼は幼子を腕に抱きながらこう語ります。29、30節。「主よ。今こそあなたは、おことばどおり、しもべを安らかに去らせてくださいます。私の目があなたの御救いを見たからです。」

彼は何を言っているのか。今やっとな自分の目で救い主を見たので、死んでもかまわないと言っているように聞こえます。日本では、たとえば善光寺や伊勢神社にお参りしたらあとはいつ死んでもかまわないと言う人がいますがそれと似ているように見える。

でももしそうであれば、ただ自分の願いがかなったので満足です、というのと変わりません。でもシメオンは、聖霊の語りかけをきちんと聞くことのできる信仰をもっていました。ただ死んでも満足ですと言っているとは思われない。何か別のことを見ているようです。それは何か、そのことに触れる前にシメオンがマリアに語ったことばをまず見ておきましょう。

3 救い主

1) 「倒れたり立ち上がったたり」

34節。「ご覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人倒れたり立ち上がったたりするために定められ、また、人々の反対にあうしるしとして定められています。」

シメオンは幼子の顔を見て喜び、幼子を連れて来た両親を祝福するところまでは良かった。問題はその後です。彼は、幼子の将来に関して不吉なことを言う。確かにイエスは、厳しい言い方で律法学者たちの偽善をあげ、強い反感を買って、最期は十字架に追いやられ殺されていきます。シメオンが言うとおりに人の心の内にある思いが、表に出てあらわにされた結果でした。イエスが悪いのではなく、人の罪の結果です。

2) マリア

ですからシメオンは真実を語ってはいたのです。でも、すやすやと眠る赤ちゃんを前にして言うことばでしょうか。そこで終わればまだよかったです。彼はマリアにも厳しいことを言っています。35節前半。「あなた自身の心さえも、剣が刺し貫くこととなります。」

マリアは救い主を育てるという大きな責任を背負っております。ヨセフと一緒について来てはいますが、責任を最後まで果たすことができるか不

安があったでしょう。シメオンから、「マリア。あなたはだいじょうぶです」と一言でも励ましがあつたらどんなにか心強かったと思うのですが、言われたことはその反対です。あなたは非常につらいところを通されていく。確かにそうになりました。マリアは十字架の前に立ち、自分の息子が十字架の上で死んでいくのを見なければならなかった。人々の「十字架につけろ」と叫ぶ声が町中にこだまします。その声は確かにマリアの心を刺し貫きます。母親にとって、息子が目の前で殺されていくのを見なければならぬことが、どんなにつらいことか、皆さんならおわかりでしょう。マリアはそこを通らなければならぬ。マリアはシメオンが語ることばを複雑な思いで聞いたでしょう。

3) 去らせる＝赦す

シメオンは間違ったことは言わなかった。でもなぜ今ここで言うのか。シメオンがこう語っていたことにもう一度思い出しましょう。29、30節。「主よ。今こそあなたは、おことばどおり、しもべを安らかに去らせてくださいます。私の目があなたの御救いを見たからです。」

「去らせてくださいます」とは、文の流れからこれはシメオンが死ぬことだと思わなければなりません。もちろんそのとおです。ところが、この「去らせる」ということばは、聖書の中では「罪を赦す」という意味でも使われている。そうするとシメオンはこう言ったことにもなる。

「主よ。いまこそあなたは、おことばどおり、平安のうちにしもべの罪を赦してくださいませ。」

地上のいのちは今終わり、このからだは倒れていくでしょう。でも罪赦された者は、永遠のいのちをいただきます。であるならば、この方がもう一度起こしてくださるはずではないか。その起こして下さる方を、今自分の目で見ることができた。それがわかったので、いま安心して死ぬことができる。シメオンは地上での限られたいのちではなく、よみがえりの永遠のいのちを見えています。

でも永遠のいのちは自動的に与えられるものではありません。人の心の内の闇の中にある罪が邪魔をしています。光となって来られた方は、闇の中から罪を暴き出します。それが十字架です。マリアはそれを見ることとなります。もし、救い主が十字架で死んで墓に葬られて終わりであったなら、どこにも救いはありません。マリアはだれよりも大変な不幸を味わったあわれな母親と言われて終わりだったでしょう。

でもシメオンは、神が約束されたとおりに、自分の目で、死からよみがえられる救い主を見ることになった。死の先にある永遠のいのちの希望があります。だから、厳しいことでもあえてマリアに語る事ができたのだらうと思います。

シメオンの信仰から多くのことを教えられます。私たちは目の前のことで一喜一憂し、いつもおろおろしてばかりいます。

でも、シメオンは神のことばのとおり自分の目で救いを見たと言いました。そうすると私たちはどうなるか。もう絶望しなくてよい。へんな言い方をすれば、もう絶望できない。もちろん、心はいつか絶望感に捕られるかも知れなけれど、その先がある。希望がある。喜びがある。平和がある。イエス・キリストは皆さんひとりひとりのために、この世に来てくださった。あなたのいのちのために来られたことを覚えていただきたいと願います。クリスマスに、救い主が私たちに来てくださったことがどんなにか私たちの光であるのか。もういちど思い起こし、御名をあがめます。